

コラム①：早期ロータリーによるケブカアカチャコガネの防除について

宮古地区のさとうきびほ場では、12月～1月にかけてケブカアカチャコガネによる激しい立ち枯れ被害が見られることがあります(図1)。

ケブカアカチャコガネに対しては3月中旬までの早期ロータリーによる密度低減が効果的です。被害が発生したほ場では防除対策を徹底しましょう。

図1 立ち枯れほ場



1 発生生態および被害

- (1) 2年で一世代を経過する。
- (2) 成虫は1月下旬～3月の夕刻に地上に出現し交尾する(図2)。8月までに卵から2齢幼虫を経過し、9月頃3齢になり翌年の3月頃まで根茎部を食害する(図3)。3月下旬から地中深く潜行し、30～70cmの地中で休眠する。10月頃に蛹化し、11月頃に成虫になるが、成虫はそのまま地中にとどまり、翌年の1月下旬～3月に地上に出現する。
- (3) 3齢幼虫の根茎部の食害により、11月頃から収穫茎の立ち枯れ被害を引き起こす。
- (4) 成虫の体長は、13.5～16.5mm。体色は褐色で全身に淡褐色の毛が密生する。



図2 成虫



図3 幼虫による食害

2 防除上注意すべき事項

- (1) 3齢幼虫は3月中旬までは地表から30cmの比較的浅い地中に生息しているので、収穫後から3月中旬までにロータリー(碎土・耕耘)作業を実施することで物理的に防除できる(図4)。
- (2) 上述のロータリー作業により、3齢幼虫の密度を作業前の3割程度まで低減することができる。
- (3) 3齢幼虫が地中に潜行する時期が年次や圃場間で異なる可能性があるため、収穫後早めに作業するのが望ましい。
- (4) 硬い土壌の場合、1回の碎土で十分に深耕できない場合があるので、状況に応じて複数回ロータリー作業を実施する。



図4 ロータリーによる碎土